

全国初の取り組み！

農林環境専門職大学が開学

今年4月、全国初の農林業分野の専門職大学として「静岡県立農林環境専門職大学」が開学する。時代の要請に応えながら、次代の農林業者を養成する同大学の特色とは何か。実学を通じて、産業や地域の未来を切り開く本県の取り組みについて紹介する。

「専修学校」から「大学」へ

自然豊かな本県では、古くから農林業が栄え、県内各地で、多彩で高品質な農林産物が生産されてきた。しかし、グローバル化や6次産業化、スマート農業の進展などに伴い、農林業者に求められるものは変化してきている。また、近年は、農林業・農山村が有する環境保全や景観形成などの多面的機能の評価が高まる一方で、人口減少や高齢化の進行による農山村の活力低下が危惧されている。

県は、このような現状を踏まえ、変化に対応できる専門職業人材の養成を目指して、平成29年度から農林大学の専門職大

学への移行に取り組んできた。そして昨年9月、静岡県立農林環境専門職大学及び同短期大学の設置認可を文部科学大臣から受け、いよいよ今年4月、開学を迎える。前身である農林大学の理念「耕土耕心」と120年の伝統を引き継ぎながら、新たな時代を切り開く農林業者を養成する、新しい高等教育機関の誕生だ。農林業分野では初の専門職大学であり、「専修学校」から「大学」への移行により、学位の取得も可能となる。

専門職大学を設置する意義は主に3つある。「将来の農林業現場を支える人材の養成」、「農山村の景観・環境・文化を守り育みながら地域社会を支える人材の

養成」、「国際社会に貢献する人材の養成」だ。

農林業経営体の規模が拡大し、農林業に応用可能な技術革新が進展している昨今、農林業の発展には基礎的な生産能力に加えて、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応力などを有する人材の養成は不可欠だ。また、農林業は自然や地域社会と密接な関係にあることから、農林業者には、自然と共生しながら農山村の景観や環境を保全し、地域の文化や伝統を守り育んでいく役割が求められる。さらに、全国初の農林業分野の専門職大学として、年齢・国籍性別を問わず農林業を志す人たちに質の高い教育を提供し、国

静岡県立農林環境専門職大学の新校舎のイメージ(令和3年4月供用開始予定)。実習には学内の圃場のほか、県の研究所等が保有する圃場や県有林なども活用。



際社会に貢献する人材を養成することも期待されている。

「高度な実践力」と「豊かな創造力」を兼ね備えた人材の養成

同大学では、「高度な実践力」を身に付けるため、実習を重視したカリキュラムを展開する。農林技術研究所などの県の試験研究機関と連携した実習を通じて、先端技術への対応力を養ったり、県内の先進的な農林業経営者の下で実際の現場を長期にわたり体験したりする課程も組まれている。

また、農林業を取り巻く環境変化に対応して新たなモノやサービスを創り出すことができ「豊かな創造力」を身に付けるため、農林業に関連する他分野の学習もカリキュラムに組み込まれている。

4年制大学では、農山村の伝統・文化や地域社会のあり方なども必修科目として学ぶ。これらの地域資源を自らの農林業経営に活かし、新たな事業展開を生み出すとともに、農山村の景観・環境・文化などを守り、地域社会を支え

る力を身に付けるためだ。

短期大学部では、生産だけでなく、加工・流通・販売に関する学習も必修とすることにより、生産物の付加価値向上のための知識・技能を身に付け、生産現場を牽引するリーダーを養成する。

こうしたカリキュラムを通して、4年制大学では農林業経営のプロフェッショナルを、短期大学部では農林業生産のプロフェッショナルを養成する。「高度な実践力」と「豊かな創造力」を兼ね備えた「農林業経営

に革新を起こす人材」を養成することに、農林業の未来を切り開き、また、こうした「地域社会のリーダー」となる農林業者を養成することで、農山村の地域社会の未来を切り開く、それが農林環境専門職大学を設置するねらいだ。

農林業と「ものづくり」で栄えてきた本県は、次代を見据えた新たな「人づくり」で魅力あふれる「ふじのくに」を実現しようとしている。



農林環境専門職大学では実習を重視。栽培、林業、畜産の3コースに分かれ、専門的な実習を行う。



講義、演習、実習等を効果的に組み合わせてカリキュラムを展開する。